

高松塚古墳壁画の修理の進捗と今後の課題

1. 壁画修理の進捗

高松塚古墳壁画の修理は、恒久保存方針に基づき、

- 壁画の現在の状態をこれ以上悪化させないための最低限の処置を基本とし、壁画の安定化を目指し、
- また、将来においてより高い漆喰強度や石材への接着強度が求められた場合に必要となる追加の強化処置が可能な材料技法を選択することとされた（国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策検討会 第 9 回 資料 4 - 1）。

修理における主な作業は次の通りである。

- ・クリーニング
 - ・合成樹脂の除去
 - ・漆喰層の強化
 - ・漆喰層と石材との接着
- } 漆喰強度の均一化

クリーニングは、作業を開始した平成 1 9 年度以降に開発・承認された手法（次亜塩素酸ナトリウム溶液、紫外線、酵素等の利用）を取り入れて実施している。漆喰強度の均一化はアクリル樹脂（パラロイド B 7 2）等を用いて進めている。

クリーニング、漆喰強度の均一化、漆喰層と石材との接着については、現在、ほぼ最終段階であり、今年度末には作業を終了できる見込みである。（「2. (1)」に記した箇所を除く p 2 ~ 8 写真 1 ~ 1 4）

2. 今後の課題

以下の内容については今年度中には終了せず、来年度以降まで検討・作業が続く可能性が高い。

(1) 漆喰について

①漆喰の粗しょう化

- ・漆喰の粗しょう化（p 9 写真 1 5）
- ・漆喰の粗しょうした箇所の表面に厚いバイオフィルムが付着した部分の扱い（p 9 写真 1 6 ~ 1 8）

②漆喰小口の浮き上がり（p 9 写真 1 9）

(2) 石材について

- ・石材の展示フレームの検討
- ・石材の移動方法の検討



写真1 北壁 玄武
(平成18年 撮影)



写真2 北壁 玄武
(平成29年 撮影)



写真3 東壁 男子群像（平成18年撮影）



写真4 東壁 男子群像（平成29年撮影）



写真5 東壁 青龍 (平成18年 撮影)



写真6 東壁 青龍 (平成29年 撮影)



写真7 東壁 女子群像 (平成 18年 撮影)



写真8 東壁 女子群像 (平成 29年 撮影)



写真9 西壁 男子群像 (平成18年 撮影)



写真10 西壁 男子群像 (平成29年 撮影)



写真 11 西壁 白虎・月像 (平成 18 年 撮影)



写真 12 西壁 白虎・月像 (平成 29 年 撮影)



写真 13 西壁 女子群像 (平成 18 年 撮影)



写真 14 西壁 女子群像 (平成 29 年 撮影)



写真 15 漆喰の粗しょう化



写真 16 バイオフィームによる漆喰の亀裂



写真 17 水処置により亀裂がふさがる



写真 18 乾燥すると亀裂が再び生じる



写真 19 漆喰小口の浮き上がりの状況